

再建中の「今」ならではの 首里城を間近でご覧ください。

2019年10月31日の火災で、正殿を含む9つの施設が焼損しました。

現在は、国内外の多くの皆さまからのご支援をいただき、

「見せる復興」をテーマに一歩ずつ着実に復興への歩みを進めています。

復元工事は正殿から着手しており、建築中に雨風や埃から守る「素屋根」が解体され、約6年ぶりに首里城正殿が沖縄の青空の下に姿を表します。

その後は令和8年秋の完成に向けて、正殿内部や両廊下、

仮設階段棟などの施工を行ってまいります。

※原則、土日は復元工事の作業はお休みです。

i 案内所

救護室

駐輪場

飲食店

AED

(自動体外式除細動器)

エスカレーター

売店

トイレ

貸出センター

エレベーター

コインロッカー

授乳室

駐車場

喫煙所

おむつ交換台

車イス・杖・ベビーカー

エレベーター

喫煙所

無料区域

有料区域



③龍樋 (りゅうひ)



龍の口から水が湧き出ていることが名の由来。瑞泉門の手前にあり、応急や賓客の大切な飲料水でした。

④広福門 (こうふくもん)



扁額の「広福」とは「福を行き渡らす」という意味。東側は戸籍を管理する「大寺座」、西側は寺や神社を管理する「寺社座」がありました。

⑤奉神門 (ほうしんもん)



3つの入口のうち、中央の門は国王など限られた身分の高い人だけが通りました。開門を告げる朝の儀式「御開門」を見るすることができます。

⑥首里城復興展示室



獅子瓦など火災後の残存物の展示や、首里城復興へのあゆみを映像で紹介しています。展示内容は工事の進捗によって変わります。

⑦世誇殿 (よほこいでん)



国王が亡くなると、次期国王の即位の礼が行われた場所。現在は大型モニターで琉球王国の歴史と首里城正殿構造の魅力などを紹介しています。

⑧東(あがり)のアザナ



城郭の東側に築かれた物見台で、首里城公園一帯や那覇の街並みを一望できます。東は日が昇る場所のため方言で「アガリ」と言います。

①守礼門 (しゅれいもん)



扁額の「守禮之邦」は「琉球は礼節を重んずる国である」という意味。沖縄戦で破壊され、1958年に復元されました。

②園比屋武御嶽石門 (そのひやんうたきいしもん)



国王が外出する時の安全をこの石門の前で祈願しました。沖縄戦で一部破壊され、1957年に復元。2000年12月に世界遺産に登録されました。